

JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	小林 仁美	学校名	群馬県高崎市立群馬南中学校
担当教科等	英語	対象学年（人数）	① 1年5組（32名） ② 1年1～7組（229名）
実践年月日もしくは期間（時数）	① 2019年11月（2時間） ② 2020年1月～3月（各クラス1時間）		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：特別の教科 道徳		
2. 単元(活動)名：①「幸せってなんだろう」②「私たちにできることはなんだろう」		
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 授業テーマ：①「幸せってなんだろう」②「私たちにできることはなんだろう」 単元目標： ① パラグアイの人やクラスメイトの「幸せ」に対する考えを聞きながら、「自分にとっての幸せ」を考えることができる。 ② 日本の現状、パラグアイなどの開発途上国の現状、世界の現状を知った上で、パラグアイで活躍している日本人やパラグアイの人々の考えや思いを知り、今の自分にできることを考える。 関連する学習指導要領上の目標： ① 向上心、個性の伸長 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。 ② 国際理解・国際貢献 世界の中の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与すること。		
4. 単元の評価規準	①知識及び技能	社会科など他教科で学んだことを関連させながら考えられる。
	②思考力、判断力、表現力等	考えをまとめる際に、必要な情報を読み取り、SDGsと関連させながら考えられる。
	③ 学びに向かう力、人間性等	他者の意見を聞き、自分なりの意見を持つことができる。
5. 単元設定の理由 (生徒観、教材観、指導観)	【単元設定の理由】 ① 自らのクラスに様々な事情で不登校になってしまった生徒がいた。クラスの中には、その生徒以外にも人間関係で悩んでいた、家族のことで悩んでいた、現状を悲観したり、自分の現状を周りのせいにしてしまうのではなく、現状は「自分の気持ち」次第で変化していくこと、自分が変化することで周りも変化することに気づいて欲しかった。そして、「幸せ」というプラスなことに目を向けさせたり、今まで目を向けなかった周りの「幸せの種」をクラスメイトから知ったりして、彼らの生活がより豊かに、そして色鮮やかにするための一助となりたかった。 ② 学校の授業の中で国際理解や国際的な視点で物事を考える機会が少ないと非常に感じていた。そして、SDGsという言葉は群馬ではなかなか取り上げられていない、知名度が低いという現状があった。そのため、自身の経験を交えながら、国際的な視点、SDGsの視点で考えさせ、自分事として捉えさせたかった。 【生徒観】 自分自身に自信のない生徒が多い。正解のない答えでも、周りとは異なることを極端に恐れる。したがって、自分自身で考えることはできるが周りに対して発表するということが苦手の生徒が多い。 【指導観】 ① 1時間目の最後にあらかじめ考えをまとめさせ、2時間目は自分の考えが書いてあるメモを見ながら発表させることで、考えを伝えやすくした。2時間目は、班の人、パラグアイの人など	

	<p>様々な人の「幸せ観」にふれ、「自分にとっての幸せ」を考えさせた。自分にとっての「幸せ」を発表することは、発達段階を踏まえると少し抵抗のある年齢であると思ったため、全体でなく、グループ活動にして、意見の交流を図らせた。</p> <p>② 第一に日本の現状、パラグアイなどの開発途上国の現状、世界の現状、開発途上国と日本の関係を説明することによって、日本の置かれている状況、世界の置かれている状況に危機感を持たせ、自分事として考えさせた。その上で、パラグアイで活躍している日本人やパラグアイの人々の考えや思いを読み、自分には何ができるのか考えやすいようにした。また、バズ学習を取り入れて、相手に資料の内容や考えを伝える、あるいは相手の資料の内容や考えを聞く必然性を作り、意図的に交流の場を作った。</p>
--	---

6. 単元計画（全2時間）

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	写真から見るパラグアイの現状	パラグアイの現状を理解させる。	視覚資料から、パラグアイの様子を見て、理解する。	・研修中に撮影した写真や動画。
2 本時	自分にとっての「幸せって何だろう」	様々な人の「幸せ観」にふれ、「自分にとっての幸せ」を考えさせる。	パラグアイの人、班の人など、多くの人の「幸せ」についての考えを聞き、自分にとっての「幸せ」を考え直す。	・研修中に撮影した写真。 ・書籍

7-1. 本時の展開①

本時のねらい：パラグアイの人やクラスメイトの「幸せ」に対する考えを聞きながら、「自分にとっての幸せ」を考えさせる。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (5分)	<p><班活動></p> <p>○今の自分の幸せを共有する。</p>	<p>・前時にあらかじめ発表することを伝えておき、発表がスムーズにできるようにした。</p>	
展開 (32分)	<p><個別学習></p> <p>○ある人の考える幸せについて空欄に当てはまる語句は何かを考える。</p> <p><グループ学習></p> <p>○グループで考えを共有する。</p> <p><一斉学習></p> <p>○全体で確認し、「幸せは自分の心が決める。」というキーワードを確認する。</p> <p>○これからの生活を「幸せな心」を持</p>	<p>・文脈から考えられる文章を用意し、空欄の言葉を考えやすくした。</p> <p>・自分の考えと周りの考えを聞くことにより、考えをより深められるようにした。</p> <p>・パラグアイ農家の例を出し、幸せというものは「心」が決めるということを理解できるようにした。</p> <p>・現状を悲観したり、自分の現状を周り</p>	<p>・「ありがとうとお金の法則」著：小林正観</p> <p>・現地の農家でのインタビュー</p>

	つ時のヒントを伝える。	のせいにしたりするのではなく、現状は「自分の気持ち」次第で変化していくこと、自分が変化することで周りも変化することを気づかせるような声かけをした。	
まとめ (13分)	<p><個別学習></p> <p>○授業の振り返り 「幸せ」について再考</p> <p><グループ学習></p> <p>○考えを発表し、「幸せ」についての考えが変化したかを話す。</p> <p><一斉学習></p> <p>○クラスみんなに発表する・</p>	<p>・振り返る視点を与え、参考になるようにした。</p> <p>・考えを共有することで、考えの整理をさせた。</p> <p>・クラスみんなの意見を聞き、さらに自分にとっての「幸せ」との相違点を発見させた。</p>	
8-1. 評価規準に基づく本時の評価方法			
<p>1. 「幸せ」とは何か自分なりの考えを持つことができた。</p> <p>2. 友だちの「幸せ観」を聞くことができた。</p>			
7-2. 本時の展開②			
本時のねらい：日本の現状、パラグアイなどの開発途上国の現状、世界の現状を伝えた上で、パラグアイで活躍している日本人やパラグアイの人々の考えや思いを読ませ、今の自分にできることを考えさせる。			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (2分)	<p><講義></p> <p>○本時の学習の流れを説明する。</p>	<p>・学習の見通しを持たせる。</p>	
展開 ①(23分)	<p>○日本の現状、パラグアイなどの開発途上国の現状、世界の現状、開発途上国と日本の関係を説明する。</p>	<p>・日本の置かれている状況、世界の置かれている状況に危機感を持たせ、自分事として考えさせる。</p> <p>・クイズ等取り入れ、興味を持たせるようにした</p>	<p>・事前研修</p> <p>・現地で参加した青年海外協力隊の方々との交流会で行われたクイズ</p> <p>・現地で撮影した写真</p>
②(20分)	<p><バズ学習 班活動></p> <p>○パラグアイで活躍している日本人やパラグアイの人々の考えや思いを読む。</p>	<p>・相手に資料の内容や考えを伝える、あるいは相手の資料の内容や考えを聞く必然性を作り、意図的に交流の場を作った。</p>	<p>・現地でのインタビュー</p> <p>・現地の写真</p> <p>・地球ひろばの</p>

	<p>○SDGs との関連を考える。</p> <p>○自分には何ができるのか、読んだ感想を書く。</p> <p>○1人1分ずつくらいで、班員に発表する。</p> <p>○大切だと思うことのメモをとる。</p>	<p>・ワークシートにメモをする欄を設けたが、第一の目的はメモを取るのではなく、相手の考えを聞くことであると伝え、忘れてたくない重要なキーワードのみメモを取るよう指示をし、目的の確認をした。</p> <p>・SDGs 資料を用意し、関連させることが難しい生徒の参考になるようにした。</p>	SDGs に関する資料
<p>【まとめ】 (5分)</p>	<p>○振り返りをする。</p>	<p>・自分の取り組みを自分の言葉でだけでなく、項目を用意して振り返りやすくした。</p> <p>・項目と自由記述の部分を作り、振り返りしやすいようにした。</p>	
<p>8-2. 評価規準に基づく本時の評価方法</p> <ol style="list-style-type: none"> SDGs について理解することができた。 自分の考えを伝えることができた。 友だちの考えを聞くことができた。 以前よりも国際理解について興味を持つことができた。 			
<p>9. 学習方法及び外部との連携</p> <p>①では、グループワークを取り入れた②でもグループワークだが、バズ学習も取り入れた。これにより、他者の意見を取り入れながら、自分の意見を考えさせられた。</p>			
<p>10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 今回の研修に参加するにあたり、学年集会を開き、学年の先生や生徒に向けて、研修の内容を伝えた。そして、「地球の裏側パラグアイの人と繋がりませんか？」と生徒に投げかけ、生徒にしおりを作成してもらい、実際に訪問した先々の学校の生徒に配布した。 社会科、技術科、家庭科の教員に今回の研修で得た資料や知識を提供している。 JRC 委員担当として、書き損じはがきの回収（アジアの学校づくりの一環）、履き古した靴の回収（靴を履けず、病気になるアフリカの子どもたちに向けて）活動を実施した。 来年度は、授業実践を引き続きするとともに、授業公開をし、多くの先生に参観していただく機会を作りたい。 			

【自己評価】

<p>11. 苦労した点</p>	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマが難しく、発表しやすい学級経営ができていなかったため、発表することに抵抗を感じている生徒がいた。 ・SDGs や研修での内容を有効に活用できなかった。 ・パラグアイは「かわいそうな国」として捉えさせてしまった。 ・自分事として捉えさせることが難しかった。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際理解、国際貢献の必要性の伝え方が難しかった。
------------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を出ていない授業のクラスの実態を把握しきれず、適切な支援と声かけが難しかった。
12. 改善点	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パラグアイの実態をもっと把握してもらおう。 ・発表しやすい雰囲気づくり、学級づくりをする。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実態がわからなかったクラスは、授業参観をしたり、担任の先生ともっと連携をとったり、実態把握に努めるべきだった。
13. 成果が出た点	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悩み事に対して自分自身で解決しようとする意志が見られ、今ではその悩みとうまく付き合いながら日々生活している様子がある。 ・「幸せ」は人によって異なり、それで良いということと、違うということを否定するのではなく、それを認める発言が見られたこと。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「世界で役に立ちたい」「救いたい」「募金・寄付など自分のできることをしたい」「部分的に学んできた社会の問題が繋がった」「授業で学んだことのない内容だった」「興味を持てた」という感想が多くあり、自分事として捉えられる人が多かった。 ・「世界で困っている人を救うために、SDGs や国際協力があるんだ」という感想の記入をし、意義を理解している人がいた。
14. 学びの軌跡(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	<p>*紙面の都合上3名の生徒のワークシートはのみ掲載することをご承いただきたい。</p> <p>①</p> <div data-bbox="454 920 1437 1144" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>自分の幸せで: 環境や状況ばかりは目を向けて、^{幸せ} 幸せを考えていけば 結局、最後に、決めるのは心ということがわかる。 家族で与えられているものだけ目を向けて、与えられたものをどう使って、幸せは決まらると思う。</p> </div> <div data-bbox="432 1137 1453 1391" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>今日の授業を通して正確に「幸せって何」がわかって、少し思いました。なので「自分もこれから学校生活で何」を意識して生活していきたいと思えました。ほくは先生の意見が「心」も正解と思いが自分の意見の「楽しい時に生きる」も違うから、はいかと思いましたが、ほくは幸せの正解は一つではないと思います。</p> </div> <p>・今まで幸せは自分の状況や心だと思っていたけど、自分の心で決められることが改めてわかった。これからは、辛いこと、苦しいこと、悲しいことがあっても、それをポジティブな思考に変えたり、面白い話などに変えたりして、幸せに考えられるように過ごしていきたい。また、自分の「心」で人生を幸せなものにできるようになりたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幸せは自分で作るものと思った。 ・グループの中でも人それぞれで、幸せの感じ方が違うということもわかった。 ・幸せとは何なのかわからなかったけど、これからは幸せを探してみようと思う。 ・自分の心が決めるといっても、いくら幸せになろうと思っても、どうしても思えない時、幸せになれない時ってあると思う。幸せってなろうと思ってるものではなくて、普段の生活についてくる。自然となるものなのではないかと思った。 ・幸せと思うことが他にもあった。 ・幸せは人からもらうのではなく、人からもらったものを幸せに感じるのだと思った。自分から幸せを感じられるようになりたいし、与えられる人になりたいと思った。

	<p>② </p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の道徳で、SDGsについて行った。今、川の水を飲んでいる人や家がない人、食べ物が無い国がたくさんあると聞きました。日本は当たり前のように「幸せ」があるけど、それが無い国もあるので、その人たちにできることがあるなら進んでほしいです。 ・世界には色々な人がいる。色々な問題がある。そして、それに対する様々な活動があるということを感じた。同じ地球にいても、自分と違う立場で生活をしている人がいて、「こんなことになっているんだ」と発見があった。将来なんらかの形で、世界にとって役に立つ人になりたいなと考えることができた。 ・SDGsについて日本は今までほとんどできていると思っていたけれど、色々な問題があるということがわかった。さらに、世界を維持、進歩させるには、世界国々の協力が必要だと思った。自分も少しでもSDGsに協力できるようにしたい。 ・国際協力をしないと世界は成り立たないと思った。自分はあまり興味を持たなかった分野だけど、興味が持ててよかったです。 ・僕も将来、他の人に感謝されるようになりたい。 ・世界には、様々な考え方をを持った人がいて、それを理解することが大切だと感じた。
<p>15. 授業者による自由記述</p>	<p>今回の参加で、力のある、そして尊敬できる他県の多くの教員に出会えたことが大きな収穫だった。1回目の実践のリベンジをすべく、各クラスでのローテーション道徳の内容は、パラグアイチームの玉腰さんが、学習会で得た授業方法をアレンジしてくださったものを、自分なりに少し手を加えて私の生徒に実践したものである。研修期間も、研修後も助けてくださる心優しい先輩方に囲まれて、「私もいつか先輩方に自分の実践で還元したい！」と思うようになった。今回出会ったパラグアイチームの全ての人とのつながりをこれからも大切にしたい。そして、県を超えてコラボ授業を実施してみたり、今後の教材研究をともに行ったり、実践を共有しあったりする中で、自身の教員としての資質を高めていきたい。そのために、今後の教員生活では「国際理解」「国際貢献」「SDGs」を基本軸に授業実践に取り組みたい。</p> <p>今回は、この研修を自身の教科と関連づけをしたかったが、単元と内容の関連を発見することができず、「特別の教科 道徳」で実施した。来年度は、「英語」と今回の研修を関連づけて行いたい。</p> <p>最後に、教員として2年目であり、パラグアイチームの中で最年少であった私は、研修中は「甘え」があった。研修中に出会った青年海外協力隊の山口萌さんは、年齢を言い訳にせず、たくさんの方に挑戦し、自分の未来を切り拓く姿を見せてくださった。同い年である山口さんは、その「甘え」に気づかせてくれ、帰国後の自分の考えを変えるきっかけを与えてくれた。研修中は、海外で活躍する多くの日本人に出会い、自分の意志を強く持ち、「誰かのために頑張る姿」からたくさんの勇気もらった。今後、一人の教員としても、一人の人間としても「私にできることは何だろうか。」と考え続け、生活していきたい。</p>